

〔日本書紀欽明〕元年七月己丑遷都倭國磯城島郡磯城島仍號磯城島金刺宮

〔書言字考節用集乾坤〕敷島一名磯城島同
〔萬葉集十三〕歌挽歌磯城島之日本國爾何方御念食可津禮毛無城上宮爾○下

〔冠辭考志〕しきしまのやまとにくに

万葉卷十三に家集呂志貴島倭國者事靈之所佐國叙また式島之山跡之土丹卷九に天平磯城島能日本國乃石上振里爾云々こは崇神紀に三年九月遷都於磯城是謂瑞離宮欽明紀に元年七月遷都倭國磯城郡磯城島仍號爲磯城島金刺宮とありて二代ながら殊にあまた年おはしまして名高ければさる比よりおのづから大和の國の今一つの名の如く成にけん仍て後にこと所の都となりても猶やまといふには冠らせてよめるならん奈良朝となりては既やまと之事として之奇島能人者和禮自久としもよみたり

〔國號考〕夜麻登秋津島師木島を

〔國號考〕夜麻登秋津島師木島を

師木島は古事記に天國押波流岐廣庭命○欽者坐師木島大宮治天下也と見え書紀にも此御代の卷に元年秋七月丙子朔己丑遷都倭國磯城郡磯城島仍號爲磯城島金刺宮と有てもと此欽明天皇の都の地名なるを萬葉集の歌どもにしきしまのやまとの國とよめり抑かくのごとく亥きしまのやまとつゝけいへる意はもとは大和一國をさしてにはあらず京都をさしてやまと、はいへるにてしきしまの都といはむが如しかの萬葉の歌にやまとには鳴てか來らむよぶこ鳥とよめるやまと殊に京師をさしていへると同じ又かの秋津島倭とつゝけいふもやはら同じくて本は秋津島の京といはむがごとしさればその秋つしまも師木島も共にみな京の名をいへるにて國の名にはあらずこれらもし一國のことならば倭の秋津島倭の亥きしまといはではことわりかなはずさて本はいづれも右のごとく京師をいへるなれどもかくつ